

【短報】

コンテナ輸送によるアフリカ産アリ類 2 種の日本への侵入例

寺山 守^{1)*}, 富岡康浩²⁾, 木村悟朗²⁾, 藤山 厚³⁾¹⁾ 〒339-0054 さいたま市岩槻区仲町 2-12-29²⁾ イカリ消毒株式会社 技術研究所 〒275-0024 千葉県産習志野市茜浜 1-12-3³⁾ イカリ消毒株式会社 藤沢営業所 〒251-0872 神奈川県藤沢市立石 3-3242

Invasion case of two African ant species into Japan due to container transportation

Mamoru TERAYAMA^{1)*}, Yasuhiro TOMIOKA²⁾, Goro KIMURA²⁾ and Atsushi FUJIYAMA³⁾¹⁾ 2-12-29 Naka-cho, Iwatsuki-ku, Saitama 339-0054, Japan²⁾ Technical Research Laboratory, IKARI Shodoku Co., Ltd., 1-12-3 Akanehama, Narashino, Chiba 275-0024, Japan³⁾ Fujisawa Branch, IKARI Shodoku Co., Ltd., 3-3242 Tateishi, Fujisawa, Kanagawa 251-0872, Japan

摘 要

アフリカのケニアから船舶により横浜港へ陸揚げされ、さらに陸路で神奈川県茅ヶ崎にまで輸送されたコンテナから、アフリカ産と判断されるアリが発見された。2つのコンテナ中から見出されたアリは、次の2種である：*Camponotus (Tanaemyrmex) maculatus* (Fabricius, 1782), *Crematogaster* sp. nr. *castanea* Smith, 1858.

Abstract

Two African ant species, *Camponotus (Tanaemyrmex) maculatus* (Fabricius, 1782) and *Crematogaster* sp. nr. *castanea* Smith, 1858, were found in ship containers that came from Kenya and were transported from the port of Yokohama to Chigasaki City, Kanagawa Prefecture, Japan.

Key words: 外来種 (exotic species), アリ科 (Formicidae), 日本 (Japan), ケニア (Kenya), 横浜港 (Yokohama Port)

はじめに

近年、日本各地の港湾部で侵略的外来種のアカヒアリ（ヒアリ）*Solenopsis invicta* やアカカミアリ *Solenopsis geminata* が次々と発見され、社会の注目を浴びるに至っている。これら以外にも留意すべき外来アリが得られており、ハヤトゲフシアリ *Lepisiota frauenfeldi* の記録（寺山, 2018; 寺山ら, 2018a）の他、ムネアカヒメアリ *Monomorium salomonis*（寺山ら, 2018b）やヒメアリの一種 *Monomorium* sp.（寺山ら, 2018a; 寺山ら, 2019）等、日本初記録種を含め

て次々と報告されている。

2018年10月、11月に、アフリカのケニアから船舶により輸送されて来たコンテナから2度に渡り、アフリカ産と判断されるアリが発見されたのでここに報告する。

材料と方法

1例目のコンテナ貨物を積んだ船は、2018年8月にケニアのモンバサ港を出航し、途中アジアに寄港しつつ10月に横浜港に到着した。その後、コンテナが陸揚げされ、神奈川県茅ヶ崎市まで陸路で運ばれた。コンテナを開けたところ、コンテナ内で数十個体のアリ (*Camponotus maculatus*) が発見された。

受付：2019年3月22日 (Received: 22 March, 2019)

受理：2019年5月17日 (Accepted: 17 May, 2019)

*Corresponding author: terayama@fa2.so-net.ne.jp

2例目のコンテナでは、2018年10月にそれを積んだ船がモン巴萨港を出航し、やはりアジア地域に寄港し、11月末に横浜港に到着した。その後、コンテナが陸路で茅ヶ崎市へ運ばれ、コンテナを開けたところ、コンテナ内で2種のアリ (*Camponotus maculatus* と *Crematogaster* sp. nr. *castanea*) が発見された。

これらの材料は双眼実体顕微鏡を用いて検鏡し、同定を行った。検視標本は筆頭著者(寺山)が保管している。

結果と考察

2つのコンテナから2属2種のアフリカ産のアリが確認された。アフリカからのコンテナ貨物に随伴して日本国内に侵入したアリの例は、公式には今回が初めてである。

検視標本

1) *Camponotus (Tanaemyrmex) maculatus* (Fabricius, 1782) (図1)

2職蟻, 神奈川県茅ヶ崎市, 2018年10月9日

2) *Camponotus (Tanaemyrmex) maculatus* (Fabricius, 1782) (図2)

1職蟻, 神奈川県茅ヶ崎市, 2018年11月

3) *Crematogaster* sp. nr. *castanea* Smith, 1858 (図3)

12職蟻, 神奈川県茅ヶ崎市, 2018年11月

検視標本1)が1例目のコンテナ貨物から発見された種で、2)と3)が2例目のコンテナ貨物から発見された種である。なお、コンテナ内の荷物は工業製品であった。

1)並びに2)はオオアリ属 *Camponotus* のもので、さらに触角柄節が長く、大あごに6歯をそなえ、頭盾は前方に突出し、かつ前縁は直線状であることからアメイロオオアリ亜属 *Tanaemyrmex* に位置づけられた。さらに種として *Camponotus maculatus* と判断した。本種は、大型職蟻と小型職蟻で色彩が比較的大きく異なり、大型職蟻では頭部、胸部背面、触角柄節、脚脛節、付節が黒色で、胸部側面下部と腹柄節、触角鞭節、脚の基節から腿節までは黄褐色となる。また、腹部は黒色で、基本的に第1、第2節に小さな黄褐色斑を持つ。小型職蟻では、頭部、胸部、脚が黄褐色から褐色で、腹部に発達した黄斑を持つ。腹部の特徴的な黄斑から、本種は英名で‘spotted sugar ant’ と呼ばれている (Slingsby, 2017)。10月に採集された検視標本は、本種の大型職蟻 (図1左) と中型職蟻 (図1右) であった。発見時は、コンテナ内の床部に数十個体が認められ、その場で殺虫剤による駆除が施された。一方2)は本種の小型職蟻であった (図2)。いずれの例でも女王個体は確認していない。また、発見当時の現場写真を見る限り、卵、幼虫、蛹も見られず、発見された

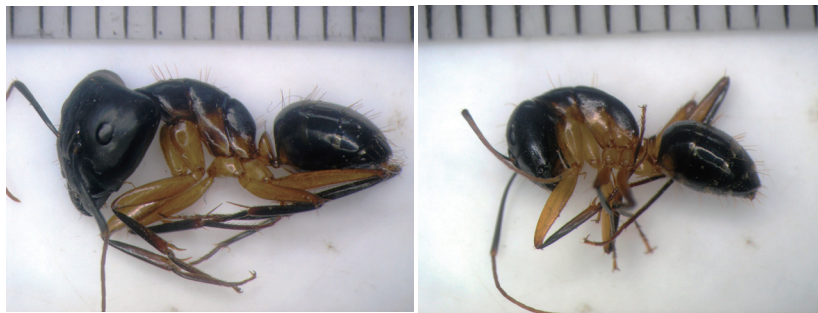


図1 *Camponotus maculatus* (Fabricius, 1782). 左, 大型職蟻; 右, 中型職蟻.



図2 *Camponotus maculatus* (Fabricius, 1782), 小型職蟻 (体長約 8 mm).



図3 *Crematogaster* sp. nr. *castanea* Smith, 1858, 職蟻 (体長約 4 mm).

時は、働きアリのみの集団であった。

本種の原産地はエチオピア区と考えられるが、現在世界各地から報告が見られ、中東から東南アジア、ニューギニア、オセアニア、ヨーロッパ、北米、南米から記録されている。ただし、これらの記録の中には一部誤同定が含まれていると考えられる。一方、北米のワシントンやオレゴンからの記録は建物内から得られたもので、人為的移入によるものであろう (Mackay and Delsinne, 2009; Ant Web, 2019)。ヨーロッパではドイツとスペインから得られている (Ant Web, 2019)。マダガスカルを含めて原産地のアフリカでは広く分布する。

3) のシリアゲアリ属 *Crematogaster* は、世界に約 770 種が記載されており、アリ科の中で種数の多さでトップ 5 に入る巨大な属である (Ant Wiki, 2019)。アフリカからは 308 種・亜種が記録されているが (Fisher and Bolton, 2016)、アフリカでの本属の分類研究は進んでおらず、種の特定は困難である。本種は、黒褐色の色彩と針状に長く突出した前伸腹節刺を持っており、アフリカに生息する *Crematogaster castanea* に近い種と判断した。

今回のコンテナを積んだ船は、アジア地域にも寄港しているが、その間コンテナは開けられておらず、これらの 2 種は出港地のケニアから運ばれて来たものと推定される。

引用文献

- 1) Fisher, B. L. and B. Bolton (2016) *Ants of Africa and Madagascar. A guide to the genera.* 503 pp. Univ. California Press.
- 2) Mackay, W. and T. Delsinne (2009) A new species of carpenter ant (Hymenoptera: Formicidae: *Camponotus*) from Paraguay with a key to the New World members of the *maculatus* species complex. *Sociobiology*. 53: 487–498.
- 3) Slingsby, P. (2017) *Ants of southern Africa.* 247 pp. Creda Communications.
- 4) 寺山 守 (2018) ハヤトゲフシアリ：新たな侵略的外来アリ。昆虫と自然 53: 4–7.
- 5) 寺山 守・富岡康浩・岸本年郎 (2019) 関東地方港湾部で得られた外来アリ類。つねきばち 33: 13–24.
- 6) 寺山 守・富岡康浩・岸本年郎・森 英章・上森大幹・岡島賢太郎・砂村栄力 (2018a) 東京港及び横浜港で得られた外来アリ類。昆虫と自然 53: 25–26.
- 7) 寺山 守・富岡康浩・森 英章・伊藤 元 (2018b) 本州港湾部で発見された外来アリ類 3 種。都市有害生物管管理 8: 39–43.
- 8) Ant Web v7.79.2. Available from <https://www.antweb.org/> (Accessed 25 February 2019)
- 9) Ant Wiki. Available from <https://www.antwiki.org/> (Accessed 25 February 2019)